

アイヌ関連施設を利用した教育旅行を充実させるために

知っておきたいポイント

アイヌ関連施設を利用した教育旅行を、生徒にとって有意義なものにするために、押さえておきたい流れとポイントを紹介します。



Check

下見と申し込みまでの流れ

1

事前の下見がおすすめ

教育旅行をより有意義なものにするために、可能であれば事前に下見をするのがおすすめです。ホームページに下見の申し込み方法が記載されている施設以外でも、希望すれば受け入れてくれる施設が多いので、まずはメールや電話で問い合わせてみましょう。施設によっては、学年や人数、事前学習の程度を踏まえ、見学方法や学習プログラムの相談に乗ってくれる場合もあります。

2

見学申し込みまでに決めること

下見を終えたら、その施設における学習の目的、実施日、訪問時刻、滞在時間、交通手段、事前学習と事後学習の展開などを決めましょう。あわせて見学のみか、体験プログラムにも申し込むかも決定。プログラムによっては、人数制限があったり所要時間が長いものもあるので、しっかり確認を。

3

申し込みは早めに

6～10月は、学校団体の見学希望が集中する傾向にあります。基本的に予約は申し込み順になるので、余裕を持って早めに相談・申し込みするのが安心です。

学習のポイント

Step.1

事前学習

ポイント
アイヌの人々の
基礎を学ぶ

- アイヌの人々の成り立ち、歴史、文化、言語、世界観、社会構造などに関して広く情報収集し、基礎知識を得る
- 疑問に思うこと、知りたいこと、体験したいことなどを、生徒それぞれの視点から探す

Step.2

現地学習

ポイント
見学や体験を通じて
学びを深める

- 施設を訪れ、学芸員や専門スタッフから説明を受けながらアイヌの人々の伝統や文化、生活を学び、事前学習の知識と併せて理解を深める
- 体験プログラムを通じて文化を体感し、魅力や奥深さを知る

Step.3

事後学習

ポイント
学びを整理し、
現代との繋がりを考える

- アイヌ文化が現代にどのように息づいているか、またその重要性を考える。そのうえで未来に繋ぐために何ができるかを考える
- アイヌの人々の生活から学んだ持続可能な価値観と、歴史的背景に触れて養われた多様性尊重の視点を育てていく

事前学習により、
現地での学びを最大化

施設での学習を生徒にとってより効果あるものにするために、学習計画を立てておきたいところです。学習目的を共有し、事前に生徒自身がアイヌの人々について学習し、知りたいことや疑問に思うことを見つけておけると、現地での学習がより深まります。事前学習のほか、ワークシートや見学のしおりを作成する際に役立つ教材が、アイヌ民族文化財団のホームページに掲載されています。ほかにも、施設によっては独自に用意されている場合もあります。ぜひ活用しましょう。

加えて、博物館がどのような場所で何を学ぶのか、見学の仕方、注意事項などを周知しておくことで、現地での時間を有意義に過ごせます。

公益財団法人アイヌ民族文化財団

<https://www.ff-ainu.or.jp/>



見学のマナー

(各施設に共通するマナー)

- 1: 一般のお客さまも大勢います。他のお客さまに迷惑をかけることのないようにしましょう。
- 2: 展示物には、基本的にさわってはいけませんが、「さわって良い」マークが付いているものには、さわることができます。ただし、乱暴に扱うことは禁止です。
- 3: 展示室の中では、飲んだり、食べたりできません。アメやガムも禁止です。施設内の休憩場所などを利用しましょう。
- 4: 写真撮影、動画撮影、SNS への配信など施設によっては禁止されています。事前に確認しましょう。